



ロータリー：
変化をもたらす

ROTARY MAKING A DIFFERENCE

2017~2018年度RIテーマ

例会場：ホテル プエナビスタ／例会時間：第1・2 火曜日 19:00~20:00, 第3・4・5 火曜日 12:30~13:30

～奉仕してこそロータリアン

子どもの貧困を理解し、
我がクラブの存続も見通す～

点 鐘 12:30 宮坂会長
司 会 S. A. A. プログラム 柴田クラブ管理委員長
斉 唱 「手に手つないで」

(セントラルビオススタッフ様による生演奏)

ビジター紹介

宮坂会長
[丸九RC] 牧 幸男君
会長あいさつ



宮坂会長
本日は8月29日です。
あと3日で8月も終わります。
9月になれば
全国すべての小中学校で2学期が始まります。

私はこの2年間、2学期が始まるこの季節を待ち遠しく過ごしています。早く2学期が始まらないかな、と思っています。何故ならば、夏休み中休止されていた学校給食が再開されるからです。

2年前、松本市PTA連合会会長を務めていた際、ある校長から夏休み明けに体重が明らかに減っている子どもたちがいることを聞かされました。普段の学校生活でも、朝食と夕食を十分に摂っていない疑いがある子どもたちがいるそうです。おそらくは育児放棄や家庭の貧困などが原因なのでしょう。

そのような子どもには、平日5日間の学校給食はまさにライフラインです。給食が量的にも栄養的にも成長期に適した食事であることは言うまでもありません。少なくとも給食だけはお腹いっぱい食べられる満足感。それが一転、休止される夏休み。子どもによっては、その期間がサバイバルとなってしまう危険性があるという事実を、私は2年前、初めて知りました。

本来ならば子どもたちにとって、夏休み中は楽しい思い出を作り、心身ともに成長して2学期を迎える。しかし一部の子供達は、夏休み中十分な食事すら摂れないという事実。これがまぎれもない我が国の現実です。

本日は今年度のテーマの1つである「子どもの貧困研究」の2回目です。前回はたまかな現状を学びましたが、今回はもっとシリアスな話になっていきます。3年前、NHKで放送された「クローズアップ現代」を30分間視聴したいと思います。

ぜひ皆さんにはこの問題を解決するために何が出来るのか、を自問自答して頂き、ロータリアンとしてなすべきかをまとめていきましょう。

幹事報告

中島幹事

①ロータリー適用相場変更のお知らせ。

ロータリー・レートが9月1日から1ドル109円(現行111円)に変更されます。

②次回9月5日例会終了後、定例理事会開催。

③各RC例会変更のお知らせ。

[大町RC] 9月13日(水)休会、9月27日(水)移動例会(くろよんロイヤルホテル)

ビジター受付 [松本南RC] 勝田靖隆君

出席報告

藤田クラブ管理委員

会員総数21名(内出席規定適用免除欠席者2名)
本日の欠席者4名(他2名は事前メイキャップ済)
出席率78.95%

前々回(8/1)修正欠席者3名 出席率84.21%

ニコニコボックス報告

藤田クラブ管理委員

コメント ◇今朝の一件で、ここ数ヶ月、森友やら加計で大騒ぎしていた我々は猛省すべきです。特に国会議員とマスコミ(古巣の信毎含む)。宮坂君 ◇セントラルビオス様、本日もお世話になります。お食事が楽しみです。ところで、北朝鮮、早朝から賑やかなことをやってくれて困ったものです。次は何をしてかすのでしょうか? 中島君 ◇富士総合火力演習の木曜夜間の部、90才の男性1名、昼間から行方不明ということで、突如中止に。私の手元には「幻のチケット」が・・・土曜日(26日)の午前・午後、地区の米山と財団の勉強に行ってきた。宮澤君 ◇今朝は、北朝鮮のミサイル発射で目が覚めました。世の中、平和でありたいもの。その為に私達は何をしたらよいのか。大久保君 ◇葉月も終り、世の中騒がしくなってきました。穏やかでありますように。上條君 ◇目覚ましで音がしたと思ったらビックリです。平和であってほしいと思います。児野君 ◇北朝鮮の脅威といい、これから学習する貧困問題といい、子ども達の未来が不安です。山崎君 ◇ミサイルはカンベン!! 柴田君 ◇今日も楽しい音楽を聞きながら参加出来たととても嬉しいです。ありがとうございます。井筒君 ◇秋来ぬと目にはさやかに見えねども 風の音にぞ驚かれぬ。塚本君 ◇今朝は早くからJアラートに起こされましたね。頑丈な建物はここ? 藤田君 なんとなく ◇丸山君

配布資料; 「幹事報告」「会報No.6」

回覧資料; 「地区大会のご案内」

～ プログラム ～

《子どもの貧困研究②》「ビデオ視聴」

進行; 宮澤国際奉仕委員長

おなかいっぱい食べたい ～緊急調査・子どもの貧困～

出典; 2014年9月25日放送 NHK「クローズアップ現代」

<http://www.nhk.or.jp/gendai/articles/3556/1.html>

*子どもの貧困 「食」すら ままならない

子どもの貧困についてNPO法人フードバンク山梨の調査です。

企業や農家などから寄贈された食品を、支援が必要な家庭に無償で提供する活動を続けています。活動を始めて6年。これまで1,000世帯以上を支援してきました。

支援を受けるのは行政などから紹介を受けた世帯です。多くは収入が生活保護の水準を下回っていますが、さまざまな事情から生活保護は受けていません。最近では子育て世帯が増え、支援の対象となる人の4割を子どもが占めています。

子どもたちはどのような生活を送っているのか。

NPOは、子どものいる世帯を対象に実態調査に乗り出しました。この日訪ねたのは、7歳から17歳まで4人の子どもを育てる母子家庭です。

3年前に離婚。パートで毎日働いていますが、収入は生活保護基準を下回っています。一度は生活保護の申請を考えました。しかし、通勤に欠かせない車を手放さなければならず、諦めました。

助けとなっているのが、NPOから2週間に1度送られてくる6キロのお米です。浮いたお金で、以前はほとんど購入できなかった野菜などを買えるようになりました。この日のメインはオクラを入れた納豆です。もらい物のきゅうりを漬物にして出すなど、なんとか栄養のバランスを取ろうと努力しています。しかし、育ち盛りの子どものためには十分とは言えません。

パートで得る収入は平均10万円。児童扶養手当など合わせると月収は18万円ほどです。一方、家賃や光熱費、奨学金の返済など、毎月固定で出るお金はおよそ14万円。差し引くと4万円ほどで5人家族の食費をやりくりしなければなりません。非正規雇用の仕事は月によって働く時間が短くなることもあり、収入が減った分はどうしても食費が圧迫されるといいます。最も厳しい時には、主食のお米さえ買えないこともあります。

今回NPOではアンケート結果について、栄養学が専門の教授と分析を行いました。そこから浮かび上がってきたのは貧困の厳しい現実でした。今回調べた支援世帯では1人当たりの1日の食費は329円。300円にも満たない家庭が半数近くに上りました。

米や麺など主食のみというケースが多く、おかずなど栄養のバランスが取れた食事を1日に1度もとっていない家庭が8割以上に上ったのです。栄養不足で体重が減った、貧血で倒れたなど、子どもたちの健康にまで影響が及んでいることが明らかになりました。

さらに今回の調査では、貧困が子どもの体の健康だけでなく、学校生活や友人関係など社会的な基盤を揺るがしていることも見えてきました。17歳になる長男は、中学のころから不登校になりました。学校では友達が普通に楽しんでいることに参加できず、孤立することが多かったと言います。

*「ちゃんと食べたい」 広がる子どもの貧困

◇育ち盛りの子どもの体と心への影響は？

一緒にファストフードに行き、自分は食べることができない。友達と同じようにすることができないというのが、自分に対する自己肯定感を下げるということに影響を与えてるんじゃないかなと感じます。(学業や今後の進路にも影響する?)自分の意見を言っても認められないんじゃないかとか、それから自分は他の人よりも劣っているんじゃないかとか、そういうふうにしてしまいがちなんだろうと思います。



◇昔は自分たちも同じだったという人もいるのでは？

でも今はちょっと時代が違います。昔は同じように空腹であった、それを分かち合うことができたと思うけども、今は周りがみんな、ある程度の生活をしている、自分だけがなぜ?って思うんだろうと思います。

◇子どもの貧困対策に対する大綱、食に関する支援は？

- ①教育の支援 ②生活の支援
- ③保護者に対する就労の支援 ④経済的支援

と記述はされています。ですが、具体的な制度として明記されていません。学ぶということについてはいろいろ書いていただいて、それは大成功だろうと思います。

しかし、学ぶための条件としての食べるということについて、もう少し具体的に、私たちは制度化していく必要があるだろうというふうに思います。

*子どもの「食」どう支える 始まった地域の挑戦

◇栃木県大田原市

2年前から、子育て支援の一環として小中学校の給食費無料化に踏み切りました。

結果的に、保護者の多くから経済的に助かったという声が寄せられています。これまで学校では、給食費を滞納する家庭には子どもを通じて督促をせざるをえませんでした。その必要がなくなりました。

◇東京都豊島区NPO

毎月2回、地域の子どもなら誰でも入れる食堂を開いています。食材は寄付や助成金で賄い、調理は地域の主婦たちのボランティア。子どもたちは手伝いをすると無料で食べることができます。栄養バランスの取れた食事をおなかいっぱい食べられる上、みんなで食卓を囲む楽しさを味わえる場所になっています。

この食堂に来ることで救われたという少女がいます。12歳の女の子です。小学2年生のころから学校に行けなくなりました。母子家庭であることを友達にからかわれたことがきっかけでした。母親はパートで働いていますが生活は苦しく、食事は1日1食だけです。しかし、誰にも相談できず家に引きこもる日々が続いてきました。

「つらくて悲しくなったりとかして、ママが本当に やつれていたので言えなくて、苦しかったです。」

*国はどう取り組むべき？

まず学ぶということが大切だということは、大綱の中で明確に打ち出されています。学ぶための条件について、食があるということについては、もう一歩踏み込んでいいのではないかなと思います。これから各自治体がいろんな計画を作ります。子ども子育て支援に関する、新制度の仕組みを作っていきます。その中で、食べるということをぜひ盛り込んでいただきたい。

これが今、必要なことだろうと思います。

点 鐘 13:30

宮坂会長

[写真；山崎]